

# 序 章

これからのまちづくりの視点

これからのまちづくりの課題と方向性

# これからのまちづくりの視点

現在の時代の潮流や小松市の位置付け・現状、これまでのまちづくりにおける取組、市民ニーズより、これからのまちづくりの視点について整理しました。

## 都市を取り巻く全国的な動向

**時代の潮流**

- 人口減少と長寿社会の到来
- 地球規模の環境・エネルギー問題の深刻化、SDGs（持続可能な開発目標）の推進
- グローバル社会の進展による国際交流の拡大
- ICT（情報通信技術）などの技術革新
- 震災による安全・安心なまちづくりの高まり
- 地方創生の視点でのまちづくりの高まり
- 民間資本・ノウハウの導入
- 市民と行政の協働によるまちづくり

## ＜都市計画関連制度の改正や制定＞

- ◆景観法の制定【H16.6】**  
これまでの開発主導、量的拡大、効率性重視の国土政策体系から「美」を重要な要素とする質重視の国土政策体系への転換
- ◆まちづくり三法の改正【H18.5】**（都市計画法、中心市街地活性化法の改正）  
・21世紀の都市型生活にふさわしい新たな仕組みづくり  
・コンパクトシティを目指した都市機能の適正立地  
・中心市街地における賑わいの回復を目指す
- ◆都市再生特別措置法の改正【H26.5】**  
都市計画法を中心とした従来の土地利用の計画に加えて、居住や都市機能の誘導によりコンパクトシティ形成に向けた取組を推進

## 小松市の位置付け・現状

- 人口減少、少子高齢化の進行
- 中心市街地の活力低下と低密度な市街地
- 広域交通結節点（空港、IC、JR駅）が近接
- 新幹線小松新駅舎の整備
- 空港や駅周辺の魅力の向上、都市機能の整備
- 車への依存、公共交通（鉄道・バス）の利用が少ない
- 車への依存、公共交通（鉄道・バス）の利用が少ない
- 車への依存、公共交通（鉄道・バス）の利用が少ない
- 車への依存、公共交通（鉄道・バス）の利用が少ない

土地・市街地整備	交通施設	公園・緑地	河川・下水道	環境・景観	都市防災
<ul style="list-style-type: none"> <li>★沖周辺土地画整理事業</li> <li>★栗津駅西土地画整理事業</li> <li>★AZスクエアの開業（公立小松大学、カブッキーランド等）</li> <li>★サイエンスヒルズこまつの開業（ひとものづくり科学館）</li> <li>★こまつ曳山交流館みよさ（曳山常設展示場）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>★コミュニティバスの運行（市内循環線、木場瀨回遊線）</li> <li>★EVバスの運行（空港EVライナー）</li> <li>★北陸新幹線開業に向けた整備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>★第66回全国植樹祭の開催（H27：木場瀨公園が主会場）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>★梯川分水路の完成（一級河川梯川の河川改修）</li> <li>★九竜橋川雨水ポンプ場の完成</li> <li>★水処理施設1系の改築更新（中央浄化センター水処理施設の完成）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>★まちづくり協定の締結（龍助町・西町・大川町・今江町）</li> <li>★小松市景観計画の策定</li> <li>★小松市指定ごみダイエツ袋の導入（減量化・リサイクル向上）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>★学校耐震化100%の達成（H25完了 市内小中35校）</li> <li>★自主防災組織結成100%</li> </ul>

## ＜上位計画＞

- 【H27】▶【H28】
- 小松市都市デザイン
- NEXT10年ビジョン
- アクションプラン（2ndステージ）等

## ＜小松都市デザイン・NEXT10年ビジョン等における目標＞

- おもしろい 1. 変革と成長しつづける - レボリューション -**  
①大交流時代の北陸の拠点  
②小松文化と世界のハーモニーで感性豊かなまち
- たくましい 2. 進化科学技術が躍動する - イノベーション -**  
③昔も今もこれからも 未来を拓く創造とサイエンスに富んだものづくり  
④環境と共生するスマートな暮らし方
- ここちよい 3. 新たなライフスタイルを楽しむ - ルネサンス -**  
⑤予防先進を合言葉に地域一体となってここちよくらし  
⑥里山・水辺に親しむ 三世代の笑顔
- はつらつ 4. チャレンジしつづける - アクティブ -**  
⑦意欲的に学習や地域貢献に取り組む はつらつとした人々  
⑧たくましい財政、市民から信頼される市役所が小松市の持続と発展をリード

## ＜現行都市計画マスタープランの達成状況＞

- ハード整備に関する事業では、都市計画道路の整備が目標を大きく上回り、河川整備や公共施設等の耐震化も目標を達成することができた。歩行空間の整備や公園・広場の整備、下水道の整備は目標に届かなかったが、一定の進捗を図ることができた。
- ソフト事業では、花と緑のまちづくりや景観形成に係るまちづくり協定の締結、自主防災組織の結成など、住民の意識・関心が高い事業で目標を大きく上回ることができた。公共交通の利用促進やゴミの減量、水質の改善など市民のライフスタイルの変化が必要となる取組や、市民の経済的負担を伴う住宅の耐震化は目標を達成することができなかった。

## ＜関係各課におけるプロジェクトと課題＞

- 【土地利用・市街地整備】産業団地造成事業（正蓮寺エリア）
- 【交通施設】北陸新幹線小松開業を見据えた鉄道利用の拡大、南加賀ターミナル構想、小松空港活性化アクションプラン
- 【公園・緑地】（仮称）親水スポーツ公園整備、フローラルこまつ推進事業
- 【河川・下水道】公共下水道事業、官民連携による下水道の維持管理と施設更新
- 【環境・景観】木場瀨水質改善事業、まちなみ景観向上推進事業（重伝建地区の選定）
- 【都市防災】小松市総合治水対策の推進に関する条例の制定、地域防災力アップに向けた人・組織づくり 等

## 市民のニーズ ＜一般向けアンケート＞

- 居住地域がさらに住みよい地域となるために重要なこと**  
「鉄道・バスなど、公共施設の利便性の向上」や「危険空き家・密集市街地の解消」、「歩行者・自転車への安全性」、「大雨などの雨水排水対策」が重要である。
- 将来の小松市のイメージ**  
「北陸新幹線・小松空港が連携した北陸の拠点としてのまち」、「公共インフラが整備された快適で住みやすいまち」、「自然災害や国民保護など危機管理体制が整ったまち」。
- 市街地の整備について、重要だと考えられること**  
「空き地、空き家、空き店舗の対策」、「公共交通機関の充実」、「駅周辺の商業地の魅力向上」が重要である。
- 若い世代の意向について**  
若い世代の意向も概ね全体と同様の傾向を示している。身近な道路・公園の整備や駅周辺の賑わいなどに関し比較的関心が高い傾向がある。

- ## まちづくりの視点
- 広域連携とグローバル化の推進
  - 人口減少と長寿社会の到来
  - 地球環境・エネルギー問題の深刻化、SDGsの推進
  - ICT（情報通信技術）などの技術革新
  - 大規模災害の経験に基づく安全・安心なまちづくり
  - 地方創生の推進  
民間資本・ノウハウの活用
  - 市民と行政の協働
  - 公共交通機関の利便性、アクセス性の向上
  - 豊かな自然環境の利活用と保全
  - 伝統文化・歴史の継承、新たな文化の創造
  - 大学教育等の充実によるグローバル人材・技術育成
  - 技術開発や人材育成等による新たな産業と価値の創出
  - 公共インフラの整備
  - 駅周辺の魅力や賑わいの創出
  - 空き家、空き地等の有効活用

これからのまちづくりの視点から小松市のまちづくりの課題を抽出

まちづくりの課題

# 小松市はSDGs未来都市に選定されました



小松市のこれまでのまちづくりの取組が、国連総会で決定された世界共通の開発理念「持続可能な開発目標（SDGs）」に沿うものとして、SDGs未来都市に小松市が選定されました。SDGs未来都市の選定を受けて、国とも連携しながら取り組みの提案内容をさらに具体化した、令和元年度から3年間の計画を定めました。小松市都市計画マスタープランにおいても、SDGsの理念に沿う取組を明示し、ゴールの実現を推進します。



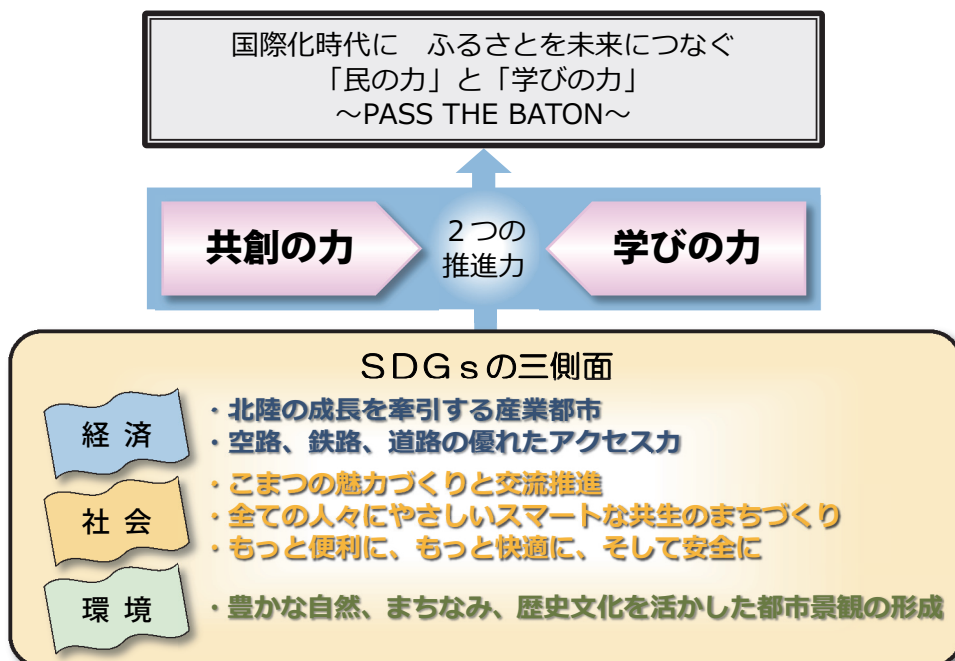
国連広報センターが作成したSDGsの公式ロゴ

## 小松市 SDGs未来都市計画

### ◆自治体SDGsの推進に資する取組

- |                         |                         |
|-------------------------|-------------------------|
| ①国際化時代へ、たくましい産業を創生      | ⑤市民・団体・企業主導の環境プロジェクトを拡大 |
| ②里山ビジネスの高度化とブランド化       | ⑥地域にやさしい市民意識と行動力を世界に発信  |
| ③予防先進の政策展開で超高齢時代に対応     | ⑦多様なパートナーシップによる未来型まちづくり |
| ④主観的幸福感を追求した質の高い地域づくり創生 |                         |

### ◆SDGsの三側面と2つの推進力



## ■これからのまちづくりの課題と方向性

まちづくりの視点より、これからのまちづくりの課題と方向性について整理しました。

### まちづくりの課題

1

#### 広域**交通機能**の充実と活用

まちづくりの視点 ① ② ⑬ ⑭

- ・ 空港やICなどの交通結節点へのアクセス向上
- ・ 新幹線開業に向けた駅周辺の魅力や利便性の向上

2

#### 暮らしや**長寿社会**への対応

まちづくりの視点 ② ⑧ ⑬ ⑮

- ・ 居住や都市機能の緩やかな誘導と暮らしの維持
- ・ 交通ネットワークの再構築、利用促進に向けた施策展開
- ・ バリアフリーの推進、**空き家・空き地**の有効活用

3

#### こまつの魅力・活力を高める **土地利用**や都市基盤の整備

まちづくりの視点 ⑥ ⑬

- ・ 産業・観光・教育などの都市機能の拡充とアクセス向上
- ・ 企業活動を支える**産業用地**の確保

4

#### 定住と**交流**の増大

まちづくりの視点 ⑩ ⑪ ⑭

- ・ 移住・定住につながるような都市基盤の整備
- ・ 『**国際都市こまつ**』としての魅力、利便性の向上

5

#### 自然環境との共生、 地域特性を活かした**景観**の創出

まちづくりの視点 ③ ⑨ ⑩

- ・ 環境にやさしい**循環型、脱炭素型**のまちづくりの推進
- ・ 屋外広告物の誘導、洗練された都市景観の整備
- ・ 歴史的な**特性**を活かした景観の保全

6

#### **災害に強い安全な** 都市空間の形成

まちづくりの視点 ⑤ ⑬

- ・ 河川や内水処理施設、ポンプ場等の改修
- ・ 条例等による**総合治水対策**の推進
- ・ 避難地・避難路の確保、市街地の再編などによる**防災性向上**

7

#### 多分野への**ICT化**の促進

まちづくりの視点 ④ ⑧

- ・ ICT化による利便性・快適性の向上
- ・ 環境と共生する**スマートな暮らし**の推進

8

#### オールこまつの『**共創**』の意識

まちづくりの視点 ⑧ ⑪ ⑫

- ・ 企業、大学等と連携した『**ひとづくり**』の推進
- ・ **市民、地域**が共創できる体制づくりの推進

〈 まちづくりの課題を踏まえ、6つの方向性に分類 〉

## まちづくりの方向性

### ◆こまつの魅力づくりと交流推進

- ・ものづくりのまちとしての特性を活かした学びの充実による「ひとづくり」
- ・自然や歴史・文化資源の継承とまちのブランド力の向上
- ・地域資源を活用した、国際的な集客交流と交流人口の拡大、賑わい創出
- ・共創のチカラを発揮する主体の育成 等

まちづくりの課題 3 4 8

### ◆広域的な交通結節点

- ・小松空港、北陸新幹線等を備えた広域結節点としての役割
- ・国際交流・物流・地域間交流拠点としての役割 等

まちづくりの課題 1 4

### ◆北陸を代表する産業都市

- ・繊維や世界的な企業を中心として発展してきた、ものづくりのまちとしての強みと新技術の活用
- ・産業活力を備えた新たな都市づくりの推進 等

まちづくりの課題 3 7 8

### ◆長寿社会など暮らしの変化に対応したスマートなまちづくり

- ・立地適正化計画と連動したコンパクトシティ・プラス・ネットワークの推進
- ・中心市街地の活性化と地域集落の維持
- ・予防先進による新たなライフスタイルの創造
- ・シニアや子育て世帯へのサポート体制の向上 等

まちづくりの課題 2 4 7

### ◆暮らしの安全性・利便性・快適性の向上

- ・都市施設の整備、公共交通の充実、交通安全の推進
- ・医療や介護、交通などへのICT活用による利便性、快適性の向上
- ・市街地の防災性向上と、地域防災力の向上 等

まちづくりの課題 2 4 6 7

### ◆豊かな自然環境や歴史を活かした都市景観の形成

- ・歴史的な町並みや文化を活かした都市景観の保全・整備
- ・共創による良好な自然環境の保全、環境への負担が小さい循環型社会の形成
- ・水と緑の導入等による居住環境の質の向上

まちづくりの課題 3 5 8

〈 基本理念や目標、全体構想の各整備方針に反映 〉